

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都美術工芸大学11号館	階数	地上 2F
建設地	京都府南丹市	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	70 人
気候区分		年間使用時間	1,600 時間/年
建物用途	事務所, 集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2011年8月11日
敷地面積	73,011 m ²	作成者	磯部 元
建築面積	1,202 m ²	確認日	2011年9月3日
延床面積	2,203 m ²	確認者	磯部 元



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 92%

③上記+②以外の 92%

④上記+ 92%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境: 3.2, 2.6, 3.1, 3.2

Q2 サービス性能: 3.2, 3.0, 3.4

Q3 室外環境(敷地内): 2.0, 4.0, 3.0

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー: 2.5, 3.0, 3.5, 3.0

LR2 資源・マテリアル: 3.0, 2.7, 3.0

LR3 敷地外環境: 3.3, 2.5, 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	京都美術工芸大学のカリキュラムの特色を生かし、プレゼンテーション等多用途に利用できる持続可能な建物とする。	その他
Q1 室内環境	機能を鑑み、遮音性能に配慮する。製品スペックに頼るのではなく、庇等の伝統的な形態操作で環境に配慮する。	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	可能なかぎり高効率の設備システムを採用し、環境負荷の少ない設備機器とする。	Q3 室外環境(敷地内)
		敷地のもつ歴史性や周辺のまちなみや景観に配慮する。
		LR2 資源・マテリアル
		LR3 敷地外環境
		地域インフラへの負担が少なくなるよう敷地内環境の整備を実施する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される